

「環境賞」県内初受賞

四国子どもとおとなの医療センター

芸術の方で医療現場に癒やしをもたらす「ホスピタルアート」に取り組む四国子どもとおとなの医療センター（善通寺市仙遊町）。このほど、人や環境に配慮した医療機関を顕彰する「癒しと安らぎの環境賞」を県内の医療機関で初めて受賞した。

地域一体アート制作評価

同賞は医療情報誌の発行などを手がける「集中出版」（東京）が、「生涯現役」を買った医師・故日野原重明さんと2002年に創設。集中出版によると、スタッフも患者、地域住民が一体となってアート制作に当たり、病院の環境改善につなげたことなどが評価された。今年8日に表彰式があった。

同医療センターの前身の香川小児病院では09年から、ホスピタルアート活動を開始。同センターアートをディレクターの森合音さんを中心に、スタッフや患者らが壁画制作などを行ってきた。



「癒しと安らぎの環境賞」の表彰状を手にする前田和寿院長

同センターは「受賞を励みに一層活動に力を入れ、今後も『痛み』を『希望』に変えていければ」としている。

今年1月には、地域と連携して庭園などを整備するプロジェクト「Healing Garden Project」を開始。同センターと地元ボランティアが共同で取り組む。

敷地南側の約8千平方メートルの庭園の整備と隣接するレストラン棟の改善が目的で、庭園には畑を設け、収穫体験などを通じて住民らの交流を促進する。地域の人人々にとっての「心のよりどころ」を目指し、対話を重ねながら進める。

森さんは「これは全員参加型のプロジェクト。痛みを抱える人をケアするまじぶつくりをこの病院から始められれば」と話している。